『小動物の治療薬 第 3 版』出版にあたって

伴侶動物の診療を行う獣医師たちは，診療中，時間的な切迫を受けながら，薬物療法を行う．丹念に文献を検索し，効果，用量，副作用などの情報を取得していく必要があるが，多忙な診療現場では無理だろう．『小動物の治療薬』は，そのような臨床獣医師が目的とする情報にすばやくたどり着けるようにすることを目的としている．

前回の第 2 版から長い時間が経過してしまった．この間，新たに多くの薬剤が販売され，また販売が中止された．従来の薬についても新しい用途，用法，用量が報告されたものも多い．そのため今回の第 3 版では，過去に掲載していた薬物のリストを参考にしながら，獣医師が入手できそうなすべての薬剤について新しい情報を検索し，記述を見直した．かなりの時間と労力が必要であるが，一方で時間をかけてしまえば，また新たな薬剤や情報が出てきて情報が陳腐化してしまう．本書では，そのような時間的な制約の中，早期に出版し，生きた情報を提供したかった．

伴侶動物の獣医療は市販されている動物薬だけでは実施できない．獣医師はその裁量で多くの人薬を使用している．動物薬でも動物での情報が不十分なものがあるが，人薬の場合，動物についての情報はさらに少ない．学術的論文や発表，さらに薬剤のインタビューフォームに記載された動物実験でのデータ等から可能なかぎり情報を集め本書に記載することにした．多くの情報を集める努力はしたが，個人でアクセスできる情報量は限られており，すべての情報を網羅できるはずもない．調べられた範囲での記載となったが，ご容赦いただきたい．また薬物によっては，さまざまな用量や用法が報告されているものがある．そのような場合には，いくつかの情報を参照し，筆者が妥当だと思う情報を取捨選択してできるだけシンプルに記載することにした．さらに一部，筆者が臨床獣医師として経験的に知っている情報や伝えたい情報についても踏み込んで記載したつもりである．紙面の制限があり，エビデンスや出典の記載はあまり行っていない．独善的な情報にならないように注意していたが，疑念があれば是非，ご自身で情報を集めていただきたい．

この第 3 版では，情報の不足や誤りについて指摘してもらうために岡山理科大学の下川孝子先生に出版前の査読をお願いしている．記載漏れの薬剤や，筆者の知らなかった用量の情報など，丹念に調べてもらい非常に多くの有益な指摘をいただいた．下川先生のおかげで本書の質が一段向上したように思う．また文永堂出版の松本氏および木村氏には，共に本書の第 1 版から編集を担当していただいている．今回は，ほとんどの薬剤について記載を書き直しており，その過程で筆者に由来する誤字，ミス，著者の思い違いなどが大量発生した．両氏は，一語ずつ辛抱強く指摘を続けてくれた．両氏の仕事がなければ本書は記載ミスで読めない書籍になっていただろう．また使い勝手がよくなるようにデザイン，索引などについても両氏と相談しながら，工夫している．その試みが成功したかどうか手にとって判断していただければ幸いである．

2020 年 8 月　東京　新型コロナ禍の中で

東京大学農学生命科学研究科
獣医学専攻
桃井康行